

番号	項目	良くできている	できている	努力が必要	評価困難
1	理念の具体化 サービス理念や運営方針は、家庭的な環境の中で、利用者の能力や尊厳を尊重したケアを行うなど、グループホームの特徴を生かしたものになっている。				
2	理念の共有と実現 すべての職員が、ホームの理念にもとづき、常にその実現に取り組んでいる。				
3	グループホームでの生活空間づくりの工夫 建物の中心を走る廊下部分は天井が高く、開放感にあふれています。食堂と台所の前面に張り出したウッドテラスはセカンドリビングのようです。台所を挟んで食堂から独立した和室は、廊下より一段高く、腰掛けるのに程よい高さになっています。また和室には長方形の大きな掘りこたつとソファとを設置し、入居者それぞれの好みに応じて利用できる配慮がなされていました。				
4	気軽に入れる雰囲気づくり 入居者や家族が入りやすい、近隣の住民も訪ねやすいなど、玄関まわりや建物の周囲が違和感や威圧感を感じさせないつくりになっている。				
5	家庭的な雰囲気づくり 共用の生活空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレなど）をはじめ、調度品や設備、物品や装飾が家庭的な雰囲気になっている。				
6	くつろげる場所の確保 居室以外に、自由に過ごせるような居場所がある。				
7	居室の環境づくり 居室は、入居者一人ひとりの生活にあわせ、使い慣れた家具や生活用品、装飾品等が持ち込まれるなど、安心して過ごせる場所となっている。				
8	入居者の身体機能の低下を補うことに配慮した環境及び生活空間づくり				
9	痴呆症状に配慮した環境づくり 場所の間違いなどの混乱を防ぐための工夫がしてある。				
10	落ち着いた暮らしができる快適な環境づくり 入居者が落ち着いて快適に暮らせるように、音の大きさ、光の強さ、におい、冷暖房などに配慮してある。				
11	入居者に対するケアを行ううえで工夫されていること 入居者一人ひとりの情報や生活歴を家族や本人との会話の中から出来るだけ多く引き出し、人生の中でその人の最も輝いていた全盛期の姿を把握することで、誇りと力をよみがえらせることを重視したケアを行っています。個人記録には、入居者の情報が詳しく書き込んであり、職員の共通認識が構築されています。入居者の立場に立ったケアを行っており、入居者に「すみません」と言わせないさりげないケアが徹底されています。また、入居者が長時間過ごすことの多いダイニングの椅子に、座りやすい座布団を用意したり、入居者の姿勢に合わせてクッションを配したり、背の低い入居者のために足載せ台を作ったりと、個別に工夫されたケアが随所に見られました。				
12	個別・具体的な介護計画の作成 アセスメント（評価）に基づいて、入居者一人ひとりの状況に応じた具体的な介護計画を作成するとともに、その計画の内容について入居者や家族に説明している。				
13	介護計画への理解と実践 すべての職員が入居者一人ひとりの介護計画を理解し、その介護計画に沿ったケアを行っている。				
14	職員間での情報の共有 職員間での申し送りや情報伝達を確実にしている。また、重要事項について、すべての職員に伝わる仕組みがある。				
15	入居者一人ひとりの尊重 常に入居者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや対応を行っている。				
16	職員の穏やかな態度 職員の態度がゆったりしており、入居者への言葉かけなど、やさしい雰囲気で見接している。				

番号	項目	良くできている	できている	努力が必要	評価困難
17	入居者のペースの尊重 ホーム側の決まりや都合で業務を進めていくのではなく、入居者が自分のペースを保ちながら暮らせるように支えている。				
18	入居者の意志の尊重 入居者一人ひとりが自分で決めたり希望を表したりすることを大切にしている。				
19	自立への配慮 入居者の「できること、できそうなこと」について、できるだけ手や口を出さずに、見守ったり一緒に行うようにしている。				
20	身体拘束のないケアの実践 すべての職員が、身体拘束についての正しい理解のもと、身体拘束をしないケアを実践している。				
21	入居者と共同した食事の支度と後かたづけ 献立づくり、買い物、調理や後かたづけなどについて入居者と共同して行う工夫をしている。				
22	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫 入居者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や、便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理をしているかどうか。また、盛り付けの工夫等を行っている。				
23	家庭的雰囲気の食事支援 職員が入居者と同じ食事を楽しみながら、食べこぼし等に対する支援・介助をさりげなく行っている。				
24	一人ひとりに応じた排泄支援 おむつをできる限り使用しないで済むように、入居者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄や自立した排泄へ向けた支援を行っている。				
25	排泄時の不安や羞恥心等への配慮 排泄の誘導や介助、失禁などへの対応は、入居者の不安や羞恥心、プライバシーに配慮して行っている。				
26	希望に合わせた入浴の支援 入居者が自分の希望に合わせて入浴できるように支援している。				
27	希望に合わせた理美容院への利用支援 入居者の希望にあわせて、理美容院の利用を支援している。				
28	プライドを大切にした整容への支援 入居者のプライドを大切にしながら、容姿や着衣の乱れ、汚れ等に対してさりげなくカバーしている。				
29	細やかな安眠のための支援 夜眠れない入居者には、1日の生活リズムを通じた対策を取るなど、入居者一人ひとりの睡眠のパターンを把握し、安眠できるよう支援している。				
30	主体的な金銭管理に向けた支援 入居者本人が日常の金銭管理を行えるよう、入居者一人ひとりの状況に応じた支援をしている。				
31	ホーム内での役割・楽しみごとの創出 入居者がホーム内での役割や楽しみごとを見い出せるよう、家事や小動物の世話など、一人ひとりに応じた出番づくりをしている。				
32	口腔内の清潔保持 入居者の状況に応じて、口の中の汚れや臭いが生じないよう、歯磨きや入れ歯の手入れ、うがい等への支援、出血や炎症のチェックなど、口腔の清潔を日常的に支援している。				
33	身体状態の変化や異常の早期発見、対応 入居者の身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように努め、その状況を記録に残している。				
34	服薬の支援 入居者の体調と使用する薬の目的や副作用、用法や用量を理解しており、入居者が医師の指示に従って服薬できるように支援している。				
35	緊急時の対処体制の整備 入居者のけが、骨折、発作、のど詰まり等の緊急時に職員が応急手当を行うことができるようにしており、協力医療機関や消防、警察等とあらかじめ必要な事項を取り決め、連携体制を整えている。				

痴呆性高齢者グループホーム外部評価結果

グループホームへたみ家

番号	項目	良くできている	できている	努力が必要	評価困難
36	地域における入居者の生活支援 入居者が、ホームの中だけで過ごさずに、買い物や散歩、集会への参加など、積極的に地域の中で楽しめるような機会をつくっている。				
37	入居者家族のホーム訪問に関する配慮 入居者の家族が気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう、ホームに来やすい雰囲気をつくっている。				
38	入居者家族との交流支援 入居者と家族とが交流できるように、食事づくり、散歩、外出、行事など、ホームでの活動に参加する機会をつくっている。				
39	事業所としての組織的取組状況 法人代表者及び管理者は、現場の状況をよく理解して、職員と一体となって協力してケアサービスの向上に取り組んでいる。				
40	入居者の状態に応じた職員の確保 GHケアに適した資質を有する職員を採用するとともに、夜間を含め無理のない職員の勤務ローテーションを組むなど、入居者の状態や生活の流れを支援するための人員配置を確保している。				
41	事故防止の対策 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態が発生した場合には、すべての職員が的確に対応できる体制を整えているとともに、再発防止対策を検討し、サービスの改善を図っている。				
42	入居者家族からの意見や要望を引き出す工夫 入居者の家族が、気がかりなことや意見、要望などを気軽に伝えたり相談したりできるように、家族の面会時の声かけ、定期的な連絡等を積極的に行っている。				
43	地域の人々との交流 入居者と地域の人々との交流のための取組みを行っている。				
44	地域社会への貢献 痴呆の理解や関わり方についての相談への対応や教室の開催、研修生やボランティア等の受け入れなど、グループホーム運営上培った知識や経験、技術などを地域社会に提供している。				
45	ホーム全体の雰囲気 ホームは、天水町や有明海を一望できる小高い丘の上、介護老人保健施設の「てんすい倶楽部」に隣接して建っています。眺めが良く静かな環境の中で、女性ばかり9人の入居者が、お互いに助け合い、役割を果たしながら職員と共に穏やかに暮らしています。入居者の表情は明るくにこやかに、車椅子を押したり、入居者にゆっくり語りかける職員の表情にゆとりと自信が感じられるのは、お互いの間に信頼関係ができているからだと思われます。室温管理や清掃、食事の内容などに注意が良く払われ、入居者に快適な生活を送ってもらいたいという職員の熱意が全体の雰囲気に表れています。				
46	総括的な評価 前回の評価を受けて、よりケアサービスの質の向上を目指そうとする積極的な姿勢が見られます。1年の間に法人代表者、職員が一丸となって改善計画を立て、取り組まれた結果が様々な点に伺えました。「日々の研鑽を惜みず、常に介護の質の向上に努めます」という基本方針の文言通り真摯で誠実なケアを行っているホームであると評価できます。				
47	優れている点 人材育成に力を入れ、職員のスキルアップのための研修参加を奨励しています。「なんでもござれ帳」と名づけられたノートがあり、日々のケアの中で、ふと疑問に思ったこと、自分が遭遇して困ったこと、悩んだことなど何でも書き込み、気づきの共有が非常に良くできています。また、地元出身の俳優故笠智衆さんの生家のお寺に依頼し、職員のリーダーが持参した着物地に流麗な筆致で書いてもらった理念が談話コーナーに飾ってありました。入居者の中には、談話コーナーに座って眺めたり、自らの手のひらに指で書写する人もいて、ホームぐるみで理念を大切にしている姿勢が伺えました。室内は掃除や温度設定が行き届き、個性にあふれたそれぞれの居室にはトイレも完備されています。また浴室は天水地区の夜景や照明を受けた坪庭を楽しみながらゆったり入ることができる等、生活空間も入居者に快適であるよう整えられています。				
48	努力が望まれる点 まだ開設して1年半なので、これから徐々に入居者と職員が話し合い、共用空間のなかに昔懐かしい物品を揃えたり、写真集や雑誌を備えたり、小旅行に行った際の記念のお土産を飾る等、ゆっくりあせらず暮らしを作り上げていくことで、入居者にとり自分達の家という実感がより一層深まるのではないかと感じました。これからも家族(入居者)と共に成長し続けるへたみ家であってください。				